

第3回バス学習研究集会

日程と

# 学習指導案

'71.11.25.(Thu)

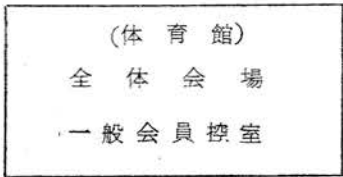
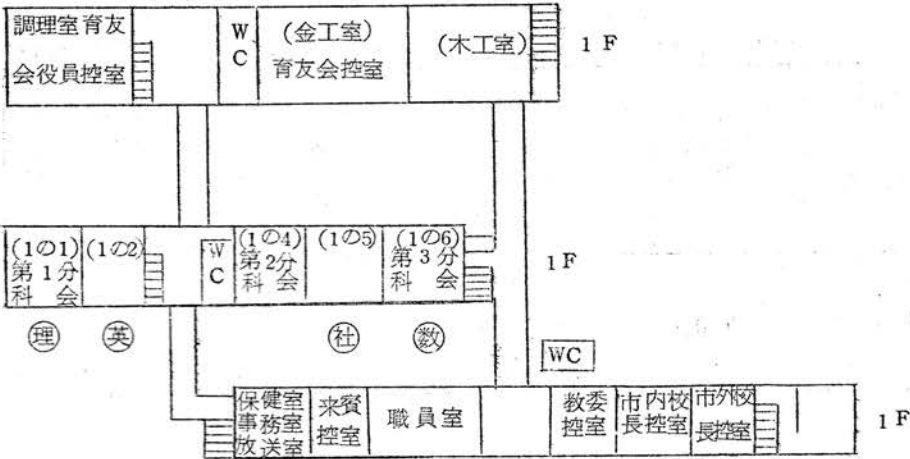
姫路市立高丘中学校

主催 全国バス学習研究会  
姫路市立高丘中学校  
姫路市立安室小学校  
後援 兵庫県教育委員会  
姫路市教育委員会  
兵庫県小集団学習研究会

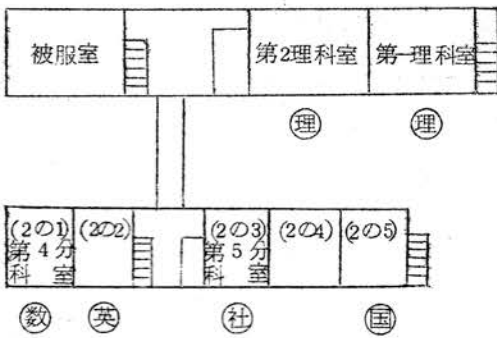
校 内 案 内 図

1 F

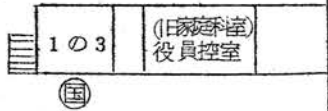
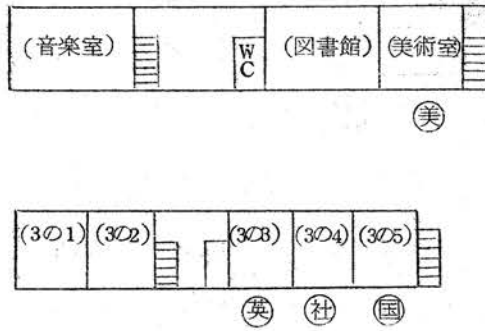
301  
⊙ 体



2 F



3 F



1 日 程

	9.00	10.00	11.00	12.00	13.00	14.00	15.00	16.00
受付	オリエンテーション	公開		休 け い	分 科 会	昼 食	全 体 会	
		授 業	各 町 へ 移 動				地 区 別 生 徒 集 会 活 動	分 科 会 報 告 と 質 疑

2 公開授業 900——945

学年学級	教科	題 材 名	指 導 者	場 所
1の1	理科	力のつりあい	北 沢 勝 史	1の1教室
1の2	英語	Lesson 18. Tom's Relatives	涌 水 靖 子	1の2教室
1の3	国語	文の成分	矢 部 剛 夫	1の3教室
1の4	美術	葉の平面構成で秋を表現しよう。	藤 本 清 子	美術室
1の5	社会	中国	河 本 好 文	1の5教室
1の6	数学	資料の整理	田 栗 博 幸	1の6教室
2の1	数学	基本図形	井 上 弘	2の1教室
2の2	英語	A Greet American President	室 田 耕 一	2の2教室
2の3	社会	封建制度の動揺	鴻 坂 正 義	2の3教室
2の4	理科	仕事とエネルギー	矢 内 正 弘	第1理科室
2の5	国語	銀の燭台—「レ・ミゼラブル」から	古 林 伸 也	2の5教室
3の1男	体育	鉄棒運動 長距離走	平 野 修	運動場南
3の1女	体育	バスケットボール	桂 敏 子	北運動場
3の2	理科	磁石と電流	武 末 昭 彦	第2理科室
3の3	英語	Lesson12; Ryoichi and Pearl Mountain (1)	伊 勢 田 耕 一	3の3教室
3の4	社会	家庭生活	小 林 睦 男	3の4教室
3の5	国語	晴れゆく空	石 原 弘 子	3の5教室

3 地域別生徒集会活動 1000 ——— 1050

参観場所並距離	担当者
辻井公民館 東 500m	三輪四郎 山本茂子
北今宿公民館 東南 500m	縄手靖市 田栗博幸
東今宿公民館 南 500m	石原弘子 浦水靖子
西今宿公民館 西南 600m	室田耕一 藤本清子
山吹公民館 北西 300m	武末昭彦 桂 敏子

4 分科会 1100 ——— 1230

分会名	テーマ	場所
第1分科会	教科指導とバズ学習(1)	1の1教室
第2分科会	教科指導とバズ学習(2)	1の4教室
第3分科会	生徒指導・特活とバズ学習	1の6教室
第4分科会	復習バズと家庭学習	2の1教室
第5分科会	地域生徒集団の指導とバズ学習	2の3教室

5 全体会 100 ——— 400

(1) 分科会報告

(2) あいさつ

(3) パネルディスカッション

テーマ 「自己統合をめざすバズ学習」

助言者	○ 名古屋大学教授	塩田芳久 先生
司会者	○ 尼崎市立日新中学校	前田 義夫
	○ 姫路市教育委員会	松岡平八
	○ 加古川市立加古川中学校	大玉一実
	○ 東京都練馬区立中村中学校	望月和三郎
	○ 春日井市立藤山台中学校	荻原克己
	○ 姫路市立高丘中学校	石本敬三

(4) 閉会

## 第1学年1組 理科学習指導案

指導者 北 沢 勝 史

### 1 題 材 力のつりあい

### 2 題 材 観

- 日常生活において経験的に活用している力は、自然現象の中でも物体の相互関係において最も大きな比重をしめている基本概念の1つである。力の法則性を明らかにしてゆくことは、自然現象をより理解し、合理的に対処するのに適した題材である。
- 本クラスは、特に注意を要する生徒はいないが、むた話が多い割には発表が少ない。力の学習は、小学校で てこ、てんびん、滑車などをすませているが、個人差・個人内差が強い教材である。したがって できるだけ身近な材料を用いた実験を通じ、生徒自身の手で力学の基本的性質を理解し、興味を持つよう指導したい。

### 3 計 画 (6時間)

第1次	力の合成	2時間(本時第1時分)
第2次	力のつりあい	1時間
第3次	力の分解	1時間
第4次	斜 面	1時間
第5次	まさつ力	1時間

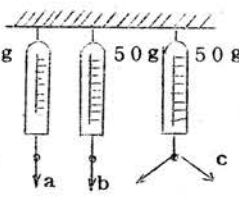
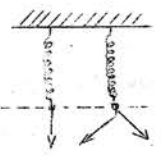
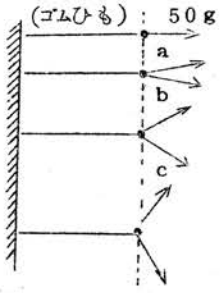
### 4 本時の目標

- 合力・分力の概念を理解させ、力の合成への導入をはかる。
- クラス全員が 安全に実験し、授業に参加する態度をやしなう。

### 5 準 備

エキスパンダー、押しびん、ゴムひも、ばねばかり、西洋紙など。

6 学習過程

学習活動	指導上の留意点
<ul style="list-style-type: none"> <li>力がはたらいた時の物体の変化について復習する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>簡単な実験を示し、学習したことを実生活の中に定着させる。</li> </ul>
<p>ばねがかりに加えた a . b . c の各力には、どのようなはたらきがあると説明できるか考えよう。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>説明図をみて考える。50 g (個人思考)</li> </ul>  <ul style="list-style-type: none"> <li>エキスパンダーをひきのばし、力のはたらきについて考える。</li> </ul>  <ul style="list-style-type: none"> <li>1つの力と2つの力のはたらきが同じであることについて(合力、分力を)知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>同じ物体に同じ変化をさせた力は、はたらきが同じことに気づかせる。             <ul style="list-style-type: none"> <li>力のはたらき、力の大小を混同させないように留意する。</li> </ul> </li> <li>身近な物体に力を加え、同じはたらきの1つの力と2つの力があることを定着させる。</li> <li>合力、分力を説明する。</li> </ul>
<p>1つの力でのばしたのと同じ位置までゴムひもをのばす a . b . c . の分力の大きさを測定しよう。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>実験方法を</li> <li>知る。</li> <li>予想を立てる。</li> <li>実験する。</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>分力の向きは、ゴムひもの方向に対して同じくらいの角度にひらくよう注意させる。</li> <li>力の大小について、予想を立てさせる。</li> <li>机間巡視。             <ul style="list-style-type: none"> <li>安全に、正確に実験を進めているか。</li> <li>全員が役割を持って、実験に参加しているか。</li> </ul> </li> </ul>
<p>実験結果を考察しよう。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>個人思考 → 班別バズ</li> <li>発表する。</li> <li>実験器具をかたづける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>分力の大きさと分力の向きが、どのようになっているかを考えさせる。</li> <li>力の分解に関係したことは、深入りしない。</li> <li>次時の予告</li> </ul>

## 第1学年2組 英語科学習指導案

指導者 涌水靖子

### 1 題材 Lesson 18 Tom's Relatives

#### 2 題材観

- この題材はbe動詞の各人称についての紹介が一応終わり、疑問文とその答え方が学習の中心になっている。一般動詞の疑問文とは異なり、be動詞の場合は主語と動詞が入れかわるのでその型を確認したあと大いにdrillが必要であろう。一般動詞の場合を基礎にして既習の単語を使って自由に対話をさせながら比較発展させ、その表現能力をより豊かなものとさせたい。そのことは英語を使おうとする積極的態度を養うことになり、そういう意味では本教材は適した題材といえよう。
- 新事項についての理解はできても運用面のくりかえしをする根気力や意欲に欠けて定着が不十分になりがちなので、むづかしい説明はさけ、口頭練習をくりかえし、根気強く指導してゆきたい。クラス全体としては男女間の仲もよく比較的活発であるが、肝心なところで消極的になってしまい傾向がある。しかしバズ学習をすすめていくに従って出来る生徒は勿論、出来ない生徒もグループの助けを借りながらとにかくまじめに勉強しようとする姿が少しずつ見られるようになってきた。

#### 3 計画 (5時間)

- 第1時 Introduction; Basic Sentences I
- 第2時 Section 1; Section 2; Exercises 1
- 第3時 Basic Sentences 2; Exercises II-A (本時分)
- 第4時 Section 3; Section 4
- 第5時 Exercises II-B; Review

#### 4 本時の目標

- be動詞の疑問文の作り方とその答え方(省略形)を理解させ、これに慣れさせる。
- 積極的にメンバーと協力し、暖かく助け合って学習をすすめていく態度を身につけさせる。

5 学習過程

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
<ul style="list-style-type: none"> <li>○前時の学習事項の復習をする。</li> <li>○宿題を班内で点検しあう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○挙手により出来具合を確認する。</li> </ul>
<p>新出単語と Section 2 の暗唱文の練習をしよう。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○班毎に対人法で口頭練習をする。</li> <li>○正しくはっきりと自信をもっていう。</li> <li>○新出単語の英語↔日本語をすばやくいう。</li> <li>○新教材の導入</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○机間巡視しながら生徒の参加度を調べる。</li> <li>○数名指名していわせる。</li> <li>○Flash cards を使用し理解の程度を確かめる。</li> </ul>
<p>be動詞を含む文の疑問文とその答えの文はどのようにして作るのか考えてみよう。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○新文型を聞き学習目標を確認する。</li> <li>○既習文型から推して語順に注意し新文型の意味をつかむ。 (個人思考-班内バザー全体確認)</li> <li>○板書を見て新文型の構造を確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○Hearingにより本時の柱をつかませる。</li> <li>○2種類の文をcontrastさせて新文型の構造を発見的につかませる。</li> <li>○新文型の補足説明をする。</li> <li>○新文型の構造がわかったかどうかリーダーに確認させ挙手させる。</li> </ul>
<p>Basic Sentences 2の文型練習をしよう。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○新文型の練習を教師の指示に従って行なう。 (個人-班内思考)</li> <li>○指名された生徒は板書する。</li> <li>○正しく書けたかどうか班内で調べあう。</li> <li>○教師の質問に答える。</li> <li>○問いに対してはすばやく反応する。</li> <li>○Flash pictures を使って対話練習をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○机間巡視により理解困難を生徒に助言を与える。</li> <li>○お互いに助け合って学習しているか</li> <li>○生徒の板書を点検し結果を調べさせる。</li> <li>○Flash Pictures を利用する。</li> <li>○大きくはっきり発音させ、イントネーションに気をつけさせる。</li> <li>○生徒同志で文型練習をやらせる。</li> </ul>
<p>教科書の Exercises II-Aをやってみよう</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○各自で練習問題をノートにする。 (個人思考-班内バザー全体確認)</li> <li>○班毎に本時の学習内容について反省しまとめる。</li> <li>○次時の予告と家庭学習の課題を確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○机間巡視により新文型の定着度をみる。</li> <li>○発表させることにより本時の学習目標がどの程度理解できたかを知る。</li> <li>○次時の予告を指示する。</li> </ul>



## 第1学年3組 国語科学習指導案

指導者 矢部 剛夫

### 1 題 材 文 の 成 分

### 2 題 材 観

- 文法は、これを知識として組織的、系統的に学習することが必要であるが、それは同時にことばの正しい表現と理解に役立つものとして身につけられるものでなければならない。

本題材は、文のほねぐみの中核となる主語・述語、そして、その肉づけである修飾語を中心に取りあげ、文の構造を解明する力を養おうとするものである。

全体から部分への今日の文法学習体系よりすると、現段階では当然のこととして、個々の品詞学習は不十分であり、本題材に取りくむにあたって多少問題も生じるが、適宜補説して解決に導きたい。

- 文法ぎらいの生徒が出るほどにまで学習は進んでいないが、用語をはじめとして知識分量もふえることであり、時間を十分にかけ、また、相互に援助、協力する学習によって、将来ともに文法ぎらいの生徒、おちこぼれ生徒の出現を少なくしたいものである。

### 3 計 画 (4時間)

第1次 文のほねぐみ、文の成分(主語・述語) - 2時間

第2次 文の成分の残り \_\_\_\_\_ 2時間

第1時 修飾語 .....(本時分)

第2時 接続語・独立語(並立語・補助語)

### 4 本時の目標

- 修飾、被修飾の関係、および 修飾語には連体修飾語と連用修飾語の二種があることを理解させる。
- 必要な文法用語に早くなじみ、それを学習活動に生かすとともに、意欲的に課題に取りくむ態度を養う。

5 学習過程

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
<ul style="list-style-type: none"> <li>板書をもとに学習目標を確認、ノートに必要な箇所を開く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文の成分（文節の種類）のひとつとしての修飾語の全貌をつかむことが目標であることを板書により提示する。</li> </ul>
<p><b>修飾・被修飾の関係について調べよう</b></p>	
<p>板書された例文について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>主部・述部に分け、それぞれから主語、述語をとりだす。</li> <li>残った文節と他の文節とのかかり受け、および関係について考え、修飾語をとらえる。</li> <li>修飾・被修飾の関係のすべてを発表する。</li> <li>各文節の成分を発表する。</li> <li>修飾するということばの意味を文法的にまとめノートする。 (個人、班思考、全体発表)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>既習内容であることを指摘、ノートを見させ代表者に発表させる。</li> <li>なにを → どうする どんなに → どんなだ どんな → なんだ であることをおさえさせる。</li> <li>文節を単位とした発表を心がけさせる。</li> <li>“被修飾語”が文の成分の名称でないことについてふれる。</li> <li>被修飾語の意味を限定する働きとしてとらえさせる。</li> <li>机間を巡視、とりあげるべき答案をチェックしておく。</li> </ul> <p style="text-align: right;">} が修飾・被修飾の関係</p>
<p><b>連体修飾語と連用修飾語について調べよう</b></p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>被修飾語の中心になる単語について、それぞれ体言か用言かを考え発表する。</li> <li>「連体修飾語」「連用修飾語」を定義づけノートする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>体言、用言の学習が十分でないので再説する。</li> <li>机間巡視、適当な助言を与える。発表させたあと、教科書の記述と比較させる。</li> </ul>
<p><b>練習問題を解いてみよう</b></p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>例について説明を聞く。</li> <li>問題を解き（個人、班）発表する。</li> <li>H、Tについて指示を受ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>発表を通し、また答え合わせのあと挙手によって理解のほどをつかむ。</li> <li>復習バスの活用を指示する。</li> </ul>

## 第1学年4組 美術科学習指導案

指導者 藤本清子

1 題材 葉の平面構成で秋を表現しよう。

### 2 題材観

- 自然美に恵まれた本校であるが、生徒たちは人工の美に感動する者が多い。色彩豊かな今、紅葉した美しい樹々に目を向けさせて、秋の感動を葉の平面構成に表現させてみたい。
  - 発想はデザイン学習でもっとも重視すべき段階である。よいアイデアを持ちながら表現能力が伴わないために、途中で投げだすことのないよう、本題材は個人プレー的要素の強い学習活動であるが、バズ形式でじゆうぶん構想を練り、計画的に制作できる能力を養い解決させていきたい。
- 美しい葉から新しいフォルムの発見と構成、秋の感動を配色する活動は多少の抵抗があるかもしれない。が、1学期のレタリング学習のようすから、デザインへの関心度も学習意欲もかなり高いクラスに達していると思うので独創的な作品へのくふうを期待している。

### 3 計画 (11時間)

第1次	色と形の基礎練習	3 時間
第2次	構成美の要素とは	0.5 時間
第3次	葉から新しいフォルムの発見	1.5 時間
第4次	制作(構成と彩色)	5 時間 (本時・2時分)
第5次	鑑賞と評価	1 時間

### 4 本時の目標

- 用具を正しく使い、ぬり方もくふうして、デザインとして適切な表現をする能力を養う。
- グループ活動に積極的に参加し、お互いに高めあおうとする態度を養う。

### 5 準備

指導者	参考作品、ポスターカラー、製図用具
生徒	水彩用具、スケッチブック

6 学習過程

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
<p>1. 用具の確認</p> <p>2. 本時制作の内容とねらいのたしかめ (美術班を中心にグループ活動)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○どんな点に注意し、どこまで制作するか計画し発表する。</li> <li>○作品について意見交換する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○メモの活用を習慣づけたい。</li> <li>○発表はグループ全員で協力し活動させる。</li> <li>○意見交換によって自分の構想をより確かなものにさせる。</li> </ul>
<p>お互いに作品を交換し、何でも感じたことをのべあおう</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○制作上の問題点があれば話し合う。</li> <li>○アイデアを交換しよう。</li> </ul> <p>3. 制作(個人プレー)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○感じたことをすなおにのべるよう指導するがいやがらせに終らないよう、お互いに高めあり批評にさせる。</li> <li>○感性をみがきあう。</li> </ul>
<p>話し合いを制作上にいかそう</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○色についての既習事項を生かして配色のくふうをしよう。</li> <li>○ぬり方のくふうをしよう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○下絵の計画が色でも生かされているか</li> <li>○全体を見通して配色しているか</li> <li>○水のごれ、筆の太さ、使い方は適当か</li> <li>○美しくていねいにぬっているか</li> </ul>
<p>本時をふりかえてみよう (バズ)</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○意欲的に取り組み、意図どおり色彩表現ができたか</li> <li>○友の意見をどこにどう生かしたか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○計画にそって彩色した結果は予定通りの効果がでているか。不十分なもの、よくなかったものについてはその原因を考えさせる。</li> </ul>
<p>5. 次時の活動計画をメモする。</p>	

机間巡視

## 第1学年5組 社会科学習指導案

指導者 河本好文

### 1. 題材 中国

### 2. 題材観

- 中国は日本と隣り合い、きわめて古くから文化交流が行なわれてきた国である。しかし、戦後の日本人の意識のうえでは、おおよそ、遠い国となっている。

今日、中国は経済的にも文化的にも、日増しに巨大な発展を遂げている。自らの創造的エネルギーを燃焼させつつ、広い国土と厳しい自然に対応して、新たな社会主義的發展の道をたくましく突き進んでいる。地理学習を通して、中国の姿を正しく理解させ、アジアの一員として相互の立場を尊重しながら、世界の平和と人類の福祉に貢献しようとする態度を育成したい。

- 本学級は明るい雰囲気であるが、全体的に落ち着きに欠ける面がある。上位の成績にある者は少なく、IQの低い者が比較的多い。中国について既有知識を調べると、「社会主義国である」「国連に加盟した。」「世界一人口の多い国である。」など、画一的・表面的・トピック的な知識に過ぎず、本当の姿を理解していない。中国人民の近代化への努力の姿を正しくとらえさせることはたいせつである。
- 日本の諸地域に続いて、世界の諸地域の学習を始めたところである。学習指導を重点的に行なうために、生活と産業の現状と、問題点に焦点をあてて学習させたい。

### 3. 計画 (5時間)

- |     |   |           |
|-----|---|-----------|
| 第1次 | 中国の位置と歴史、広い国土と多い人口<br>新しい発展、自然改造計画…………… | 2時間       |
| 第2次 | 進みゆく農業……………                             | 1時間 (本時分) |
| 第3次 | 資源の開発と工業の発展……………                        | 1時間       |
| 第4次 | 中華民国、モンゴル人民共和国……………                     | 1時間       |

### 4. 本時の目標

- 中国各地域の農業生産の特色や相違点を理解させると共に、新しい中国の農業を日本の農業との比較において把握させる。
- 中国人民の建設的な姿を知り、わが国の発展に寄与しようとする意欲を高める。
- 学習に積極的に参加し、相互に協力して、学習をすすめていく態度を養う。

5 学習過程

学習活動	指導上の留意点
<ul style="list-style-type: none"> <li>○社会班の指示で、班別に予習を確認し、本時の学習内容について話し合う。</li> <li>○中国の産業のうち、農業はどのような地位にあるか発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○始業の合図で自主的に班別学習ができていますか確認する。</li> <li>○本時の学習主題を明示する。</li> <li>○日本の農業人口と比較させて、印象づける。</li> </ul>
<p>中国のおもな農作物・牧畜にどんなものがあるか調べよう</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○どの地区にどんな作物が作られているか。各自予習したことを確認する。</li> <li>班別バズ → 班の発表 —— →全体で話し合う。</li> <li>○班毎に農作物、牧畜の分布地図を作る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○必要以上に地域を細分化したり、農作物をとりあげて、生徒を混乱させないようにする。</li> <li>○中国の農作物・牧畜の分布のようすが理解できたか。協力して作業が進められているか、机間巡視で確認する。</li> </ul>
<p>農作物から地域区分を考えてみよう</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○農作物による地域区分を考える。</li> <li>○どんな自然条件に基づいているのだろうか。</li> <li>個人思考→班別バズ→班のまとめ →全体で話し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○日本の諸地域の農業の学習を想起させる。</li> <li>○グループ討議の際、全員討議に参加しているか、主題をしっかりとらえて話し合っているか。</li> <li>○つまづきの班には適宜助言する。</li> </ul>
<p>新しい中国の農業の特色はなんだろう</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○教科書や資料をもとにして個人の考えをまとめる。</li> <li>班別バズ → 班の発表 —— → 全体の話合い</li> <li>まとめ</li> <li>○板書、ノートで各自、本時の学習内容をまとめる。</li> <li>○対人バズで、より確かなものにする。</li> <li>○本時の学習態度について自己評価する。</li> <li>次時の予習課題の確認</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○日本の農地改革と比較させる。</li> <li>○理解困難な問題が多いので、生徒の理解を越えられないようにする。</li> <li>○話し合いの中での疑問に対して積極的な援助が行なわれているか机間巡視で確かめる。</li> <li>○相互に助け合って学習のまとめをしているか、机間巡視で確かめる。</li> <li>○挙手によって評価する。</li> <li>○予習課題を指示する。</li> </ul>

# 第1学年6組 数学科学習指導案

指導者 田 栗 博 幸

## 1 題 材 資 料 の 整 理

## 2 題 材 観

- 数理統計学は記述統計学と推測統計学とに大別される。本題材は記述統計学の基礎である表やグラフの作成や、作成された表やグラフの読み取り方を扱うのであるが、これらについては小学校でも簡単をことは指導されているので、本学年においては資料を目的に応じて収集整理する能力を伸ばすことに重点を置かねばならない。
- 学習態度に余り真剣さが見られず、全体的に落ちついた雰囲気とは言えない。学力においては男子に比べ女子の方が一般的に低く、また全体で3～4名特に学力の低い生徒がいる。
- 記述統計の学習においては、数学的基礎学力としては有理数の四則演算程度である。したがって学力の低い生徒でも大体理解できると思われるので、これを機会に数学学習に対する関心を高めさせたいと考える。

## 3 計 画 (6時間)

第1次 資料の調べ方…………… 4時間

第2次 代表値…………… 2時間

第1時 平均値

第2時 モード、メジアン (本時分)

## 4 本時の目標

- 代表値として平均値のほかにモード、メジアンを考え、目的に応じて最も適した代表値を求めうる能力を養う。
- 班員の相互協力と統計に対する興味とにより学習意欲を高めさせ、いろいろの統計を自主的に判断しかつ日常生活において大いに活用しようとする積極的態度を養う。

5 学習過程

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
<ul style="list-style-type: none"> <li>○代表値についての復習 ・全体発表で確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○代表値の意味と種類について個人指名により確かめる。</li> </ul>
<p>モード、メジアンどちらがよいだろう</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○モード、メジアンに関する問題を考える。 ・班別バズにより各自まとめる。 ・全体発表し確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○モード、メジアンに関する最も基本的なものについて考えさす。 ○班別バズの際、教え込みにならないように注意させる。</li> </ul>
<p>モード、メジアンの求め方を考えよう</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○度数分布表またはヒストグラムによるモードの求め方を考える。 ・班別バズにより各自まとめる。 ・全体発表し確認する。</li> <li>○度数分布表と累積度数グラフによるメジアンの求め方を考える。 ・班別バズにより各自まとめる。 ・全体発表し確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○モードを求める際、階級値で表わすことに注意させる。</li> <li>○班別バズは疑問点の解決にとどまらせ、まとめは各自やらせる。</li> <li>○度数分布表での比例配分によるメジアンの求め方は、累積度数グラフでのメジアンの求め方と関連づけて理解させる。</li> </ul>
<p>平均値、モード、メジアンを求め、代表値としてどれが適当か考えよう</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○平均値、モード、メジアンを求める。 ・全体発表し確認する。</li> <li>○代表値としてどれが適当か班別バズをやりまとめる。 ・全体発表し確認する。</li> <li>○復習課題をメモする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○机間巡視で班内協力を向上させるとともに助言指導を行なう。</li> <li>○挙手により理解度を確かめ、本時目標達成の評価とする。</li> <li>○復習課題を知らせる。</li> </ul>



## 第2学年1組 数学科学習指導案

指導者 井上 弘

### 1 題材 基本の図形

### 2 題材観

- 図形についての概念を得て行く過程を考えると、まず第一に形や大きさの異同を認めることから始まるといってよい。従って形、大きさ、位置の研究を中心とする図形の研究においてこの教材は最も基本的な概念の一つである。
- 生徒は今までに、平行線、図形の対称、回転などの移動、図形の拡大、縮小について学んでいるが、平面図形について、さらに考察を進めるため、基本になる平行、合同、相似についてその意味を明らかにし、平行線の基本性質、三角形の合同条件、相似条件を導き、理解させるとともに次の単元からはじまる論証の基礎をきづきたい。
- この学級は能力差は比較的少ない方であるが、学習に対する積極性に欠ける生徒があり、意見発表はあまり活発ではない。

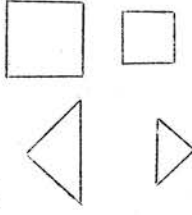
### 3 計画 (9時間)

第1次	平行線	1時間
第2次	合同	3時間
第3次	相似	4時間
	第1時 相似な図形の意味と性質	
	第2時 相似の位置と相似の中心	(本時分)
	第3時 三角形の相似条件	
	第4時 立体の相似の意味と性質	
第4次	問題練習	1時間

### 4 本時の目標

- 相似の位置および相似の中心の用語を知らせ、作図や実験を通して相似の中心や相似の位置にあるとはどんなことかを理解させる。
- 相互に協力し学習意欲を高めるとともに物事を注意深く正確に処理する態度を養う。

5 学習過程

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
<ul style="list-style-type: none"> <li>○本時目標を確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習に興味をもたせ、参加度を高める雰囲気をつくる。</li> </ul>
<p>与えられた図形と相似な図形を作図しよう</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○点（相似の中心になる点）をいろいろな位置にとり、相似な図形を書いてみる。</li> <li>○作図でわかりにくいところは班内で相互に教え合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○作図はコンパス・定規を使って正確に書くよう注意する。</li> <li>○かけた相似な図形に対応を、間違わないよう記号をつけさせておく。</li> <li>○班内で協力しているかみる。困っている班に助言する。</li> </ul>
<p>相似の位置にある2つの図形とはどんなになっているか、また相似の中心について考えよう。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○いまかいた図形をもとにして考える。 個人思考→班内バズ→発表</li> <li>・①対応する点を通る直線はどうなるか。</li> <li>・②相似の中心から対応する点までの距離の比の値はどうか</li> <li>・対応する辺はどうなっているか。</li> <li>○どんなとき相似の位置にあるといえるか発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○相似の位置、相似の中心という用語を知らせる。</li> <li>○気づいた点を発表させる。</li> <li>○対応する点を通る直線が一点で交わる時だけで相似の位置にあるとはいえないことを理解させ、必ず相似の中心からの距離の比も考えるよう指導する。</li> <li>○直感で相似の位置にあるかどうか大体判断できることを知らせる。</li> <li>○2つの条件が同時に成立するときであることを理解させる。</li> </ul>
<p>相似の位置、相似の中心について問題をしよう</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○練習問題をやる。 (プリント)</li> <li>班内バズ</li> <li>・相似の位置にある2つの正方形、2つの二等辺三角形の相似の中心を求め。</li> <li>○本時学習のまとめをする。</li> <li>○次時課題の確認</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>○机間巡視し、意欲的にやっているかみる。理解程度をみて助言指導する。</li> <li>○対応点の考え方によって相似の中心が2つあることを発見させる。</li> <li>○2つの正方形の場合と同様に2つ求めているものはないか注意する。</li> <li>・なぜいけないか発表させる。</li> <li>○挙手により本時目標の評価をする。</li> <li>○次時への予告</li> </ul>

## 第2学年2組 英語科学習指導案

指導者 室田 耕 一

### 1 題 材 Lesson 12

#### A Great American President

### 2 題 材 観

○本課では受動態(受身)が学習の中心になっている。規則動詞の過去分詞は比較的学習しやすいと思われるが、不規則動詞の変化を覚えるのが困難であろう。それでいつも教科書の巻末の不規則動詞の変化表を活用させたいと思っている。受動態が「be+過去分詞」であることをしっかり認識させ、いろいろな過去分詞を反復練習させたい。

また本課では受動態以外に、疑問詞Whyで始まる疑問文、becauseの答え方も学習の大切な要点になっている。

○このクラスは他のクラスと比較して、不活発である。2年も後半になって個々の生徒の学力差はかなり大きくなっている。それでできるだけ復習も取り入れて興味をもたせ、新教材を取り扱ってほしいと思っている。

### 3 計 画 (6時間)

第1次	Introduction	Section 1
第2次	Section 2	Basic Sentences 1
第3次	Section 3	Exercises 1
第4次	Section 4	Basic Sentences 2
第5次	Section 5	Exercises 2 (本時分)
第6次	Exercises 3	復習

### 4 本時の目標

- 疑問詞Whyで始まる疑問文とbecauseでの答え方に慣れさせる。
- Lincolnに関するいろいろなエピソードを知らせる。
- 班内での話し合いを活発にさせ誰でも発表できる習慣を身につけさせたい。

5 学習過程

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
(復習) ○前時の重要事項を確認する。 . 単語, 慣用句, 文 . Oral Work	○小テスト行なって語句、文の綴りに重点を置いて書かせる。 ○発表が特定の班に片寄らないようにしたい。
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">Oral Work の内容を確認しよう</div>	
. Oestions and Answers [新教材] ○Wew Words の発音練習をする。 ○Pattern Practiceを行なう。 Why ~ ? Because ~	○Picture cards の使用により、視覚的に生徒の理解に役立てる。 ○例文に受動態の文も加え、その復習も同時に行なえるようにしたい。 ○生徒の身近な生活に結びついたものを例としてえらばせる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">Why~? Because ~. の例文をつくらう</div>	
○Questions and answers ○本文を和訳する。	○班内での話し合いによって、できるだけ多くの生徒を学習に参加させたい。
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">本文 5 の意味を調べ大意をつかもう。</div>	
○本文の Reading ○応用練習をする。	○発表者の発言をしっかりと聞く習慣をつけさせる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">Exercises II を練習しよう</div>	
○本時の重要事項を整理する。 ○次時の予告をする。	○班内のリーダーの役割りを確認させ、話し合いに無駄のないようにさせる。

## 第2学年3組 社会科学習指導案

指導者 鴻坂正義

### 1. 題材 封建制度の動揺

### 2. 題材観

- 封建制度の動揺と崩壊の契機は、農民の成長に基づく商品生産と流通が発展し、領主的土地所有者と対立した農民や都市住民の封建制に対する反抗であり、百姓一揆や打ちこわしに明らかな現実としてあらわれている。また、幕政の改革については内容を十分につかませるとともに、改革の必要性、封建性等から批判的な見方や考え方を養成したい。
- クラスの雰囲気は明るく比較的活発であるが、まとまりを欠いている。しかし、ほとんど零に近かった家庭学習も少しずつふえ、班バスにもほとんど全員が参加するようになった。しかし、本題におけるその時代相互の関連を構成したり、封建社会の動揺・崩壊に至った歴史の流れについての理解やその根本となったものへの洞察には、やゝ困難を感じるのではなからうか。

### 3. 計画 (6時間)

- |                |              |
|----------------|--------------|
| 第1次 幕府政治の変化    | 1時間          |
| 第2次 幕府政治の改革    | 2時間 (本時第2時分) |
| 第3次 苦しい武士の生活   | 1時間          |
| 第4次 新しい産業と百姓一揆 | 1時間          |
| 第5次 天保の改革      | 1時間          |

### 4. 本時の目標

- 幕藩体制のくずれをくい止め、封建制度のたてなおしをはかった寛政の改革のねらいや内容をまとめ、その根本的原因を洞察させる中で、この改革は社会の発展に逆らったものであることを学ばせたい。
- やっと生徒に学習意欲がでてきたので、本時はたすけあいと個人思考を指導するとともに、話し合いに効率の悪い班があるので、その参加度を高め、メモをする態度を養いたい。

5 学習過程

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ホームワークを点検しあり。</li> <li>○学習目標を確認する。</li> <li>○徳川幕府をささえているものは何かを 考えよう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○班毎にはやく行なわせる。</li> <li>○メモをするよう指導する。</li> <li>○身分制度と農民からの年貢とによることを理 解させる。</li> </ul>
<p>寛政の改革はどんな時代におこなわれたか (原因)</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○時代背景を調べよう。</li> <li>・農民の生活</li> <li>・幕府旗本の財政難</li> <li>・風紀の乱れ</li> <li>・外国船来航 等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○封建制度の動揺に気づかせる。</li> <li>○商品貨幣経済の発達が崩壊に導いた根本であ ることを指導したい。</li> <li>○前時のプリントを利用させる。</li> </ul>
<p>寛政の改革の内容についてしらべよう (政策)</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○内容を検討しよう。</li> <li>・農村の復興</li> <li>・商品作物の制限</li> <li>・棄捐令</li> <li>・異学の禁</li> <li>・人足寄場 等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○個々の政策の内容を理解させる。</li> <li>○幕藩体制をどんな方行でたてなおそうとした かを考えさせる。</li> <li>○前期労働者対策が幕政史上はじめて現われた ことを知らせる。</li> </ul>
<p>どんな効果があったかを考えよう (結果)</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○狂歌から改革の特色をつかもう。</li> <li>○農民、町人、武士の生活の変化を考え よう。</li> <li>○時代の流れに応じていたかどうかを話 し合おう。</li> <li>○次時の学習内容を知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○きびしさへの反感など成果のあがらなかった ことを確認させる。</li> <li>○経済の進展に逆行した反動的なもので、支配 者のあがきであることを把握できたか。</li> <li>○バズへの参加度、メモの活用度をたしかめる。</li> </ul>

## 第2学年4組 理科学習指導案

指導者 矢内正弘

### 1. 題材 仕事とエネルギー

### 2. 題材観

- 移行措置により「力のモーメント」「動力の伝達のしくみ」などはぶかれたが、本題材学習の必要上、「力のモーメント」は学習した。「エネルギー」は新指導要領の重要な概念の系統の一つと考えられ、「仕事」の学習から一歩それに近づきたい。
- 中2ともなると「力学単元」は、女子にとって興味関心が少なく、とかく消極的になりがちである。この学級もその傾向が強く、発表も男子が多く独占する。実験の際でも男子が中心になって行っている。したがって、できるだけ身近な事物で実験させ、女子も抵抗少なくとりくめる工夫をしていきたい。なお生徒は日常語の仕事と力学の仕事の意味の違いがはっきりわからないし、また力と仕事も大へん混同しやすいので注意して指導する。

### 3. 計画 (5時間)

- 第1次 仕事と仕事の原理…………… 2時間 (本時第2時分)
- 第2次 仕事率…………… 1時間
- 第3次 仕事の量の測定(移行)…………… 1時間
- 第4次 いろいろなエネルギー(移行)…………… 1時間

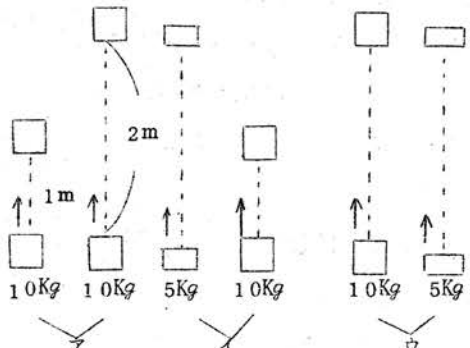
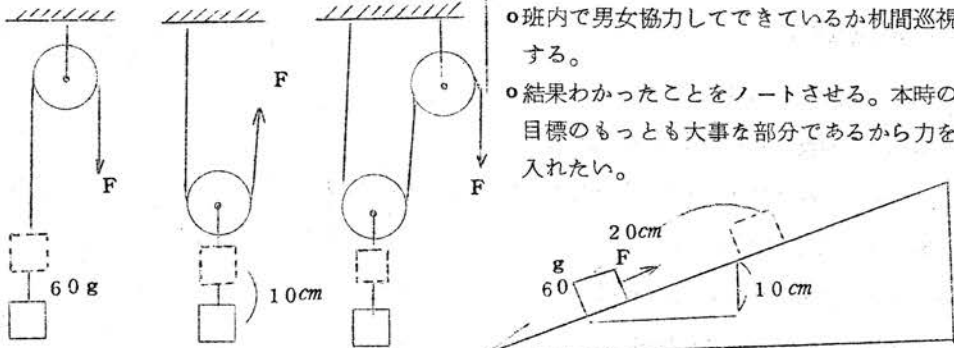
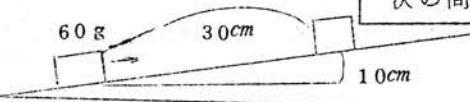
### 4. 本時の目標

- 滑車、斜面、輪軸、なにを使って実験しても、その仕事の量が同じであることを理解させる。
- 個人思考、班内の話しあい、討論などの区切りをはっきりさせ、実験や班内での話しあいを男女協力してする態度を養う。

### 5. 準備

滑車、輪軸

6 学習過程

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
<p>○前時の復習する。 仕事、仕事の量について</p>	<p>○仕事の概念と日常語の仕事との相違点を明確にする。 ○仕事の量は力と距離の積で表わされることを確認する。</p>
<p>○個人思考→班パス →全体発表</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>左のア、イ、ウ、の場合、どちらが仕事の量は大きいか、またその仕事の量はいくらか。</p> </div> 	<p>○単位Kg mに気をつけさせる。 ○力が同じだと動かした距離が大きいほど仕事も大きい。 ○距離が同じでも力が半分になると仕事も半分になる。 ○順をおって仕事の量は力と距離の積で表わされることに気づかせていく。</p>
<p>○個人思考→ 班パス→全体 発表 実験</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>次の方法で60gの物体を10cm引き上げるとき引く力と距離はいくらか、また仕事の量はいくらか。</p> </div>  <p>・仕事の量はいくらか。</p>	<p>○班内で男女協力してできているか机間巡視する。 ○結果わかったことをノートさせる。本時の目標のもっとも大事な部分であるから力を入れたい。</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>次の問題をする。</p> </div>  <p>・輪軸を使うと仕事の量はいくらになるだろうか。 ○予習「仕事された物体」はどこがかわったか考えてくる。</p>	<p>○仕事量=力×距離 (一定) ○上の問題と比較させる。 ○滑車、斜面、輪軸などを利用して仕事量はかわらない。 ○これから学習する「位置のエネルギー」に関連させる。</p>



## 第2学年5組 国語科学習指導案

指導者 古 林 伸 也

### 1 題 材 銀の燭台 ——「レ・ミゼラブル」から——

### 2 題 材 観

- この文章は十九世紀、フランスに生まれた代表的小説家、ビクトル・ユゴーの作品「レ・ミゼラブル」の一部分で、わずかな罪で苛酷な刑を終えた主人公が社会をのろい再び罪をおかしそうになったとき、ミリエル司教の暖かい思いやりと、けだかい精神とにより主人公がはじめて人間の愛に触れる劇的な出会いの場面である。卑俗低劣な読物や雑誌がはんらんし、人は主體的判断や批判の精神をともしれば見失ないがちなきほんとうにすぐれた文学作品に親しみを持たせたい。
- 「ああ無情」とか「ジャン・バルジャン物語」としてわが国にも数多く翻訳され、紹介されているが一読した生徒はクラスで七人と少ないし、まだまだ外国文学への関心が低いのですぐれた文学を読む楽しみ、真の読書のよろこびを知らない。
- 社会に拒絶されてどん底にあえぐみじめな人と暗黒に光明をもたらす正しき人との対比の中に人間心理の微妙な動揺をとらえることによって、感想や意見を持たせ、思索する力を深めさせたい。

### 3 計 画 (5時間)

- 第1時 通読 文字や語句の抵抗をとりのぞく。
- 第2時 内容を的確に読みとり感想や意見をもつ (本時分)
- 第3時 主題をつかむ
- 第4時 読後の感想・意見の発表
- 第5時 漢字 注意する語句

### 4 本時の目標

- ジャン・バルジャンの心の動き、特に盗みをするときの心を中心にミリエル司教の愛の深さを味わわせる。
- 小説を読んで問題をとらえ、感想や意見を持ち、それを学級の話し合いに発表できる意欲と態度を養う。

5 学習過程

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
<ul style="list-style-type: none"> <li>○課題の確認をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ホームタスクができているかどうか班内で点検させる。</li> </ul>
<p>話 の 筋 を つ か も う</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ノートに書いているあらすじを発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○この物語の始まる前の主人公の置かれた境遇背景となる内容をしっかりおさえさせる。</li> </ul>
<p>ジャン、バルジャンの心の迷いを考えよう</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○銀の食器を盗む決心をするまでの主人公の心の動きを考える。 (個人思考 - 班 - 全体)</li> <li>・目を閉じて眠ろうとしたが眠れない。</li> <li>・銀の食器を盗むか盗むまいか一時間も迷い続ける。</li> <li>・起き上がり、ベットの上でぼんやり考える。</li> <li>・時計の音で立ち上がり行動を開始する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ジャン、バルジャンの心の動きに関連ある語句を見つけさす。</li> <li>○個人思考から班の活動がうまくいっているか机間巡視する。</li> <li>○情景を的確にとらえ、心情をより深く理解させる。</li> <li>○班での話し合いの結果を幾つかの班から発表させる。</li> </ul>
<p>司教の寝顔のけだかさ、ジャン、バルジャンの心の変化について考えよう</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○決心してから銀の食器を盗むまでの主人公の行動を中心に考える。 (個人思考 - 班 - 全体)</li> <li>司教のへやの入口 - へやの中 - ベットのの前 - 老人から離れる。</li> <li>○次時の予告をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学級全員が自分の考え、班で話し合ったことと、対比させて聞き、発表しているか、その度合いをチェックし活発でない班には助言したい。</li> <li>○ミリエル司教が主人公にどのような影響を与えたかよく考えさす。</li> <li>○きょうの学習のまとめを班でさせ、次時の学習に主題のあることに気付かせる。</li> </ul>

## 第3学年1組(男子)保健体育科学習指導案

指導者 平野 修

### 1 題材 鉄棒運動, 長距離走

### 2 題材観

- 振りとび、け上がりなどは鉄棒ではぶらさがるとい形式が運動の基礎である。この運動はやさしそうであるが運動形式の基礎であるから十分に練習することによって次の運動の発展と考えたい。また長距離走は脚力だけでなく循環器等にも負荷をかけて成長期の生徒には必要な体力の養成種目である。
- 本学級は男子22名である。個人種目については個人の技能に差があるので嫌がる傾向にあるがこれらの運動についての必要性は十分に自覚しているので、自主的に行なったり、グループ別に協力させることにより本運動の要素を十分に体得できる機会としたい。
- 能力に応じた目標と実態を十分に把握し、グループのきまりを守り、特に安全性については特別な配慮を必要とするため補助方法も考えて実施させたい。

### 3 計画 (8時間)

- 第1次 班編成と学習の見通しをつける。……………1時間
- 第2次 振りとび、フアルトレク走……………1時間
- 第3次 け上がり、フアルトレク走……………3時間  
(本時第1時分)
- 第4次 連続運動、ベースランニング……………2時間
- 第5次 評価、記録の測定……………1時間

### 4 本時の目標

- け上がりの脚のける方向とタイミングを会得する。
- 気らかに走ることにより、走る距離に自信をもたせる。
- グループで協力して学習し、練習のきまりを守り、安全、協力性、忍耐力などを実習中に養う。

5 学習過程

学習活動	指導上の留意点
<ul style="list-style-type: none"> <li>○集合、あいさつ。</li> <li>○準備運動をする。</li> <li>○鉄棒にぶらさがって身体を振動する。</li> <li>○順手でぶらさがる。</li> <li>○逆手でぶらさがる。</li> <li>○片逆手でぶらさがる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○出欠の確認と健康状態を把握する。</li> <li>○本時学習内容を指示する。</li> <li>○大きくリズムカルに行なわせる。</li> <li>○鉄棒にできるだけ多くさわってなれさせる。</li> <li>○握り方に注意する。</li> </ul>
<p>け上がりをするためには、どのような運動が組合わされているのか。 また補助方法を考えてみよう。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○各班に分かれて行なり。</li> <li>○とび箱・チューブをつかって行なり。</li> <li>○補助方法を発見する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○力であがるのではなく、反動利用であることを理解させる。</li> <li>○頭の中で考えるのではなく、実際に運動し、補助を通して解決させる。</li> <li>○個人思考→全体発表→各班別で補助</li> <li>○け上がりの技能は会得できたか。</li> </ul>
<p>ファルトレク走で走る距離に自信をもとう。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○グループで約10分間校内を走る。</li> <li>○整理運動をする。</li> <li>○本時課題をまとめる。</li> <li>○後始末をする。</li> <li>○次時の課題を聞く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○能力別グループに分ける。</li> <li>○競争意識をもたず、リラックスして無理をさせない。</li> <li>○走り終わったら運動場をゆっくり走りながら各班で話し合う。</li> <li>○脱力運動を中心に行なり。</li> <li>○問答法や発表で目標を評価する。</li> <li>○用具の後始末をしっかりとさせる。</li> <li>○け上がりの練習について</li> </ul>

## 第3学年1組(女子)保健体育科学習指導案

指導者 桂 敏子

### 1 題 材 バスケットボール

### 2 題 材 観

- 生徒の通学路の交通量は、日増しに多くなり、生徒の受ける交通事故の危険性は増大し、それに対処する生徒の反射神経鍛練、敏捷性養成の必要にせまられている。

又、身体的に急激な発達段階にある中学生に対し、バスケットボールは十分な運動量を有し、ほとんど人間の基本的な自然運動が含まれている。そこで、バスケットボールをとり上げ、走、跳、投等の基礎的な運動能力をのばし、巧緻性、敏捷性、持久性を養っていくことにより、身体の総合的な調和をはかり、内臓諸器管の発達を促し、危険防止にも役立たせたい。

又、チームゲームであるので、責任感、積極性、協力性等の社会的態度を養成し、心身共に健康な生徒を育てたい。

- 本学校の生徒の運動能力は、先日実施したスポーツ章テストの結果からみてもわかるように、中級合格者2名、初級合格者4名で、特に秀れた生徒はなく、全般的にやや低調である。

学習のとりくみ方も積極性を欠くが、球技には興味、関心を示しているので、生徒の実態に即してバスケットボールをとりあげ、積極的な参加を期待する。

### 3 計 画 (9時間)

第1次 復習、基本技能…………… 2時間

(ゲーム、パス、ドリブル、ショット)

第2次 応用技能…………… 4時間

(3対2, 2対2, 3対3) (本時第2時分)  
(ゾーンの攻防, 速攻)

第3次 ゲーム、評価…………… 3時間

### 4 本時の目標

- フェイントやカットインプレー等を使い、攻撃法を習熟すると共に、筋力、走力、巧緻性、敏捷性又は機敏な判断力を養う。
- 安全に留意しながら、グループで積極的に協力して学習する態度を養う。

## 6 学習過程

学習活動	指導上の留意点
準備運動をしよう。	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ かけ足、準備体操をする。</li> <li>○ 集合、挨拶、点検。 本時の目標を確認する。</li> <li>○ 補助運動をする。  ・ ボールを使用する。</li> <li>○ パスをする。</li> <li>○ ドリブルシュットをする。  ・ フォローをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 準備運動を自主的、効果的、協力的に行なわせる。</li> <li>○ 生徒の健康観察をする。 本時の目標を徹底させる。</li> <li>○ 筋肉、関節の補強をはかる。 動作は大きく、極限までさせる。</li> <li>○ ボールに慣れさせる。</li> <li>○ パスの要領を理解、体得できているか。</li> <li>○ ダツシュしてキャッチさせ、トラベリングをしないようにさせる。  ・ ジャンプの最高点で捕えさせる。</li> </ul>
いろいろな攻撃方法を考え、攻撃法を体得しよう。	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 2対2の攻防をする。 ・ フェイント ・ カットインプレー ・ スクリーンプレー</li> <li>○ 3対3の攻防をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 攻撃法について相互思考をさせる。</li> <li>○ フェイントや鋭い動きでガードから離れ、ボールをうけ キープされているか。味方をうまく利用しているか。グループを巡視する。 ・ ガードは相手とボールを見させる。 ・ 相手を押す、突く、たたく等の反則をしないようにさせる。</li> <li>○ 2対2と同じ要領で攻防できているか。互いに協同性、積極性を発揮して実践しているか。</li> <li>○ 速い動きとパスで相手のバランスをくずすようにさせる。</li> <li>○ グループを巡視する。</li> </ul>
どのような攻撃法を身につけたか。 グループで協力し、学習できたか。反省しよう。	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 補強運動をする。</li> <li>○ 整理運動をする。</li> <li>○ 本時のまとめと反省 ・ 次時の予告を聞く。</li> <li>○ 挨拶、後始末</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 体力をたかめる手段とする。 能力に応じて実施させる。</li> <li>○ 筋肉を柔らかげ、呼吸を整えさせる。</li> <li>○ 技能、態度について反省させる。 ・ 次時の学習内容を確認させる。</li> <li>○ 責任を持たせ、協力して後片づけをさせる。</li> </ul>

## 第3学年2組 理科学習指導案

指導者 武末昭彦

### 1 題材 磁石と電流

### 2 題材観

- 私達の日常生活で使われている、モーター、スピーカー、電圧計、電流計は、みんな電磁石を利用したものである。その原理は、コイルに電流を通すと、まわりに磁界ができたり、磁界の中にあるコイルに電流を通すと電流にある力がはたらくわけで、いずれもこの原理を応用したものである。そこで磁石の基本的性質と磁界の概念をふまえて、その原理のきまりを探究してみたい。
- 磁石に関しては、小学校で電磁石を作ったり、永久磁石と比較したり、磁石の強さ等について学習しているので、基礎理解の上に、実験して、その学習から原理の規則性をみいだすようにしたい。

### 3 計画 (8時間)

- 第1次 磁石と磁界、磁気誘導……………2時間
- 第2次 電磁石……………2時間(本時第1時分)
- 第3次 電流計と電圧計の構造……………2時間
- 第4次 直流電動機のはたらき……………1時間
- 第5次 スピーカーのはたらき……………1時間

### 4 本時の目標

- 電磁石の構造とはたらきを調べ、コイルに流れる電流が磁界をつくることからその規則性を理解させる。
- 実験を正しく観察し、実験結果をもとにして考察し、問題を解決するのに必要な思考をすすめる態度を養う。

### 5 準備

磁針、スタンド、導線、電流計、電池、鉄、粉、電磁石、永久磁石

6 学習過程

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
<ul style="list-style-type: none"> <li>○課題をたしかめ話し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○課題を全体によくわからせる。</li> </ul>
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">磁石と電磁石ではどこが違うか考えてみよう。</div>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○磁界ができることに注意しよう。 班バズ⇒全体</li> <li>○鉄粉で検証する。 ・電流を強くする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○課題について、不確かな点を実験によって検証する態度を養う。</li> <li>○過程を予想しながら実験するよう配慮する。</li> </ul>
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">1本の導線に電流を通したとき、そのまわりに磁石と同じはたらきがあるかどうか調べてみよう。</div>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○実験の方法 順序 留意点について考え話し合い。 ・個人思考⇒班バズ⇒全体</li> <li>○課題について実験する。 ・電流の方向を変えた時の磁針のふれ方に関心をつける。</li> <li>○実験結果について、実験前の予想と比較検討する。 班バズ⇒全体</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○実験をすすめる手順をノートに書き話し合わせる。</li> <li>○机間巡視により、個人思考が、出来ているか助言する。</li> <li>○実験中に、電流、磁力線の方向の関係を、右ねじの法則にしたがっていることに気づかせる。</li> <li>○全員が自分の考えをまとめ、班ごとに話し合い、全体でまとめることができたかに注意する。</li> </ul>
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">本時の実験結果をまとめてみよう。</div>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○実験結果をもとにして、右ねじの法則を導き出し、電流の方向、磁力線の方向を、右手を使って考える。 ・おや指—磁界の方向（N極） ・にぎる指—電流の方向</li> <li>○本時の学習内容を要約する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○右ねじの法則は、今後の学習の基礎となるので十分に理解させる。</li> <li>○理解の程度を各自でたしかめさせたい。</li> <li>○本時の学習内容を、班バズにより確認する。</li> <li>○次時の課題を予告する。</li> </ul>



## 第3学年3組 英語科学習指導案

指導者 伊勢田 耕 一

### 1 題 材 Lesson 12 : Ryoichi and the Pearl Mountain(1)

### 2 題 材 観

○第3学年の半ばを過ぎ、中学英語科における基礎的文法項目の多くが取扱われてきたが、各項目の派生的な段階や、語法の面で高次なものが求められる。時制の一致、話法、… so ~ that … 構文などは、こうしたことの整理発展に好適であり、英語的思考を養うにも役立つであろう。物語の内容は日本の物語に取材し、これを arrange したものであるが、幻想と suspense に富み、生徒たちの心理をひきつけるのに恰好のものと思う。

○本クラスは比較的しっくりした雰囲気を保っているが、学力の差は大きく、production 面で劣る者が見られる。しかし班内の協力は活発な方であり、英語に対する関心も次第に高まっている。そこで、この好ましい傾向を一層助長させると共に、できるだけ落伍者の出ないように常に留意したい。

### 3 計 画 (6時間)

第1時	Introduction,	Body Sentences ①
第2時	Basic Sentences ①,	Body Sentences ②
第3時	Body Sentences ③,	Exercises ①
	Basic Sentences ②	
第4時	Body Sentences ④,	Exercises ② (本時分)
第5時	Body Sentences ⑤, ⑥	
第6時	Review,	Exercises ③

### 4 本時の目標

- 楽しい英語の物語を読解することにより、英文に親しませ、内容を全体として味わわせると共に…… so ~ that …… 構文に習熟させ、その運用力を高める。
- 発音、訳、drill に一人一人が努力すると共に、各班全員が協力しながら積極的に学習に参加し、クラス全体を高める好ましい態度を養う。

### 5 準 備

- テープレコーダ, ○Flash cards,
- My First Dictionary

6 学習過程

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
<ul style="list-style-type: none"> <li>○英語であいさつする。 (先生⇔ クラス)</li> <li>○既習事項と学習目標を確認する。 (先生⇔ クラス)</li> <li>(復習)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○英語クラスの雰囲気をもり上げる。</li> <li>○復習を要するものを意識したかどうかを調べる。</li> </ul>
<p>Basic Sentences ② の要点を確かめ、その構文を練習しよう。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○so～that… の用法を復習する。 (グループ→個人→先生)</li> <li>○Basic Sentences ② の例文をテープについて練習する。 (テープ→クラス)</li> <li>○意味内容を確かめる。(ペア)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○班別バスの後、個人発表させる。</li> <li>○複文と重文を対比させる。</li> <li>○定着度を確かめる。</li> <li>○リモートコントロールにより間のとり方を考慮する。</li> <li>○英語→日本語を並行させる。</li> </ul>
<p>本文 Section ④ を読み、意味内容を知ろう。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○本課の新語の発音を練習する。 (先生→クラス→グループ)</li> <li>○Section ④ の reading ・先生についてrepeatする。 ・テープについてrepeatする。 (先生、テープ→クラス)</li> <li>○so～that…文を認識する。 (グループ)</li> <li>○意味内容を調べ発表する。 (グループ→ペア)</li> <li>○先生の補足的説明を聞く。 (先生→クラス)</li> <li>○大意を知り、英語の質問に答える。 (先生→個人←グループ)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○まぎらわしい発音に注意する。 boat [bɔ:t]; bought [bɔ:t]</li> <li>○ポーズのとり方を工夫する。</li> <li>○正しい発音と速度でテープについて読んでいるかどうかを観察する。</li> <li>○班内で確認の後、下線をひかせ理解度を確かめる。</li> <li>○辞書と予習ノートの活用により、班別共同研究へ導く。</li> <li>○難解な部分を補足説明又はヒントを与える。</li> <li>○英答できない者に対し、班員に助力させる。</li> </ul>
<p>Exercises ②及びChart Drill ②を練習しよう。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○Exercises ②を練習する。 (グループ→トリオ)</li> <li>○Chart Drill ②を練習する。 (グループ)</li> <li>○次時への関連、予定を知る。 (先生 → クラス)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○班内の練習、班毎の発表により、全員協力して本時目標をどの程度達成したかを確認する。 (テープ援用)</li> <li>○家庭学習を確認させる。</li> </ul>

## 第3学年4組 社会科学習指導案

指導者 小林 睦 男

### 1 題 材 家庭生活

### 2 題 材 観

- 家庭生活の問題を中心に、日本の民主化の課題を明らかにしようとするのがねらいである。すなわち、家族とその集団が個人や社会に対して、どのような役割を持っているかを理解させ、古い家族制度と比較することによって、現代の家族生活がどのように営まれているかを認識させ、さらに民主的な家族生活を営むためにはどのように努力したらよいかを考察させたいのである。
- 10月に実施した意識調査により、家庭のあり方、家族関係について、考え方がバラエティに富んでおり、今後の家庭生活について深く考察していく上に、この題材は適している。(6の項目)

### 3 計 画 (3時間)

- 第1次 家族と家族制度…………… 2時間
  - 第1時 家族、家族の型…………… (本時分)
  - 第2時 古い家族制度、新しい家族制度
- 第2次 明るい家庭…………… 1時間

### 4 本時の目標

- 家族の役割について考察させ、さらに、家族の型を理解し、近代的家族の意味を明らかにする。
- 明るい民主的な家族生活を築こうとする意欲を高める。

### 5 学 習 過 程

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の目標を確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 授業内容を高めるためにもはっきりつかませたい。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 家族について話し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ Home (家庭)、Family (家族) の区別にふれ、違いを理解させる。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ プリントを読んで話し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「おおかみに育てられた少女」のプリントを各自持たせ、班バズ、全体バズをさせる。</li> </ul>

<ul style="list-style-type: none"> <li>○家族の役わりとはなんだろうか、考える。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・個性の形成（子どもの養育）</li> <li>・心身の休養と安定</li> <li>・あすの労働への力をつくる</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○結局家族の機能であるが、自分の家庭の一員としての立場から考えさせ、話し合わせる。特に人の意見を聞く態度に注意させる。</li> </ul>
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">家族の型について考えてみよう。</div>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○家族の型について考え、話し合いまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・夫婦中心の家族 (小家族、近代的家族)</li> <li>・親子中心の家族 (直系家族、大家族、家長的家族)</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒の家族構成の例をいくつかあげさせて、家族の型を理解させる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・母子 父子家庭については特に留意する。</li> </ul> </li> <li>○家族の型は、それぞれの時代に応じて生まれたものであり、意味をもっていることを理解させ、それぞれの型の持つ問題点をつかませたい。</li> </ul>
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">家族についてまとめてみよう。</div>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○家族の機能の変遷について話し合い、まとめる。</li> <li>○本時目標が達成されたか、班で話し合う。</li> <li>○次時の課題を確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○⑦消費、生産、宗教、教育 <ul style="list-style-type: none"> <li>④成員相互の愛情、人格的な関係</li> <li>⑤上述の家族の役わり</li> </ul> </li> <li>○本時目標が達成されたか、(評価) 確認する。</li> <li>○次時予告、家族制度について調べさせる。</li> </ul>

## 6 参考資料

対象人員 男 21 女 23 計 44 (備考) 表中の数字は男が先、次いで女、最後は合計である。

(1) 家庭と愛情について自分の意見に近いものを一つえらびなさい。

		(男)	(女)	(計)
イ	家庭は人間の愛情を実現させる場である。夫婦 親子 兄弟がおたがいのためにすべてをささげる気持ちをもつべきである。	11	17	28
ロ	家庭は生活の必要からできたものだが、毎日顔をあわせているからには、そこに愛情をもつほうが、家庭生活がやりやすい。	6	6	12
ハ	家庭の愛情などは結局動物的なものである。それにはこだわらず自由にふるまうほうがよい。	2	0	2
ニ	家庭は生活のためつごうからつくられたものでしかない。愛情などにあまりしぼられないほうがよい。	2	0	2

(2) 家庭で父母とよく話し合いがもたれますか。

	①父	②母	③父母
イ よくもつ	0 . 0 . 0	0 . 4 . 4	0 . 3 . 3
ロ ととき	2 . 3 . 5	9 . 4 . 13	8 . 6 . 14
ハ もたない	0 . 2 . 2	0 . 0 . 0	2 . 1 . 3

(3) あなたは、自分の家庭の評価はどれくらいだと思いますか。非常に楽しいものを5とし、非常に楽しくないものを1として○をつけよ。

① 0 0 0	② 4 0 4	③ 10 9 19	④ 6 11 17	⑤ 1 3 4
---------	---------	-----------	-----------	---------

### 第3学年5組 国語科学習指導案

指導者 石原弘子

#### 1 題材 晴れゆく空

#### 2 題材観

- すぐれた詩は、読む人の心の琴線をかなでずにはおかない。ここに収められている「晴れゆく空」「椰子の実」「落葉」の詩三篇は、いずれも生徒の心に語りかけ、深い感動を与えるだろう。また、題材的にも、形式的にも、詩情の点でも変化に富んでおり、鑑賞力を高め、表現を生かした朗読の工夫をさせるのに適していると思う。
- 生徒たちは詩が好きである。特に、わかりよい詩、調子のなめらかな詩、情緒あふれた詩が好きである。「晴れゆく空」はわかりよい点で、「椰子の実」は音楽科で学習し、「落葉」は調子がなめらかな点で親しみをもつだろう。しかし、文語の表現、象徴の表現にはかなりの抵抗を感じると思う。
- 一、二年生の詩の題材「北風」「木」で身につけてきた鑑賞力を生かして、「晴れゆく空」では寒風が人生や世界を浄めることの感動を、「椰子の実」ではしみじみとした望郷の情感を、「落葉」では沈うつな心にひびく詩情を味わわせたい。

#### 3 計画 (4時間)

- 第1時 「晴れゆく空」の鑑賞
- 第2時 「椰子の実」の鑑賞
- 第3時 「落葉」の鑑賞……………(本時分)
- 第4時 朗読発表

#### 4 本時の目標

- 「落葉」を鑑賞して、詩全体にたゞよう人間の悲しみ、はかなさなどの沈うつな心にひびく詩情を味わわせる。
- 話を考えながら聞いて判断し、批判したり、話の展開に気をつけて、話し手の真意を確実に聞きとったりする技能や態度を養いたい。

## 5. 学習過程

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
<ul style="list-style-type: none"> <li>○本時の目標を確認する。</li> <li>○知っている訳詩を発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒の発表により、いっそう目標をはっきりさせる。</li> </ul>
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">くりかえし音読しよう。</div>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○「落葉」を通読する。</li> <li>○範読をきく。 ・朗読の録音テープをきく。</li> <li>○微音読練習をして詩みに慣れる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○歴史的かなづかいや「ヴィオロン」の発音に注意して聞くよう指示する。</li> <li>○各自だけでなく、対人法でも練習させる。</li> </ul>
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">鑑賞して詩情を味わおう</div>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○どんな感じをうけるか。また、それはどうしてか調べる。</li> <li>○各連ごとに語句の意味を調べながら、情景や心情を話しあう。 ・各連ごとに文を多くして散文に改める。 ・この詩にただよふ気分と心情をとらえる。</li> <li>○「落ち葉」はなにをたとえているのか話しあう。</li> <li>○「落葉」の主題をとらえる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○班内バズに入る前に十分な個人思考をしているか注意する。</li> <li>○表現や構成については学習の展開の中で取り扱う。</li> <li>○「ヴィオロンのためいき、鐘のおと、飛び散らふ落ち葉」からくる連想やイメージを味わうようにしたい。</li> <li>○詩に象徴されている気分や意味を深くさぐらせる。</li> <li>○メモをとりながら話しあいをしているか。</li> </ul>
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">朗読を聞いて鑑賞を深めよう。</div>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○詩の情趣を味わいながらきく。</li> <li>○自己評価する。</li> <li>○次時の予告、予習課題をきく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○時間があれば堀口大学訳の「落葉」を紹介する。</li> <li>○挙手によって評価させる。</li> <li>○家庭学習として三篇の詩の朗読研究を指示する。</li> </ul>

第 1 分 科 会

テーマ

教科指導とバズ学習 (1)

助 言 者	兵庫県教育委員会	藤 花 春 夫
司 会 者	姫路市立夢前中学校	小笠原 喜代一
記 録 者	〃	松 本 駟 郎
提 案 者	◦ 美術におけるバズ学習の実践 掛川市立三笠中学校	久保田 柁 博
	◦ 学習意欲を高めるためのバズ学習 熊本市立三和中学校	坂 梨 昭 吾

---

メ モ

## 第 2 分 科 会

テーマ

教科指導とバス学習 (2)

助言者	春日井市立東部中学校	梶田 稲 司
司会者	姫路市立琴陵中学校	藪川 惣太郎
記録者	"	加藤 俊 三 高橋 正
提案者	○ 態度的目標を授業の中でどのように追求してきたか 春日井市立東部中学校 赤 羽 寿 行	
	○ 自然学級集団におけるグループ学習 尼崎市立日新中学校 奥 村 重 子	

---

メモ



### 第 3 分 科 会

テーマ

生徒指導・特活とバズ学習

助言者	兵庫県教育委員会	山口 昭 二
司会者	赤穂市立赤穂中学校	小 賀 康 雄
記録者	"	元 岡 善 治
提案者	・小集団学習を基盤とした学級経営 加古川市立加古川中学校	北 村 義 雄
	・短学活におけるバズ学習指導の実践 東京都板橋区立西台中学校	高 橋 伸 幸
	・小集団を生かした学級づくり 福井県南条郡南条町立日野中学校	川 端 英 人 岡 本 祐 鳳

メ モ

## 第 4 分 科 会

テーマ

復習バズと家庭学習

助言者	東京都板橋区立西台中学校	岩崎利雄
司会者	三木市教育委員会	木下貞祐
記録者	姫路市立高丘中学校	黒田定夫
提案者	・自主性のある学習態度を求めて 春日井市立坂下中学校	水野明
	・復習バズと家庭学習 鈴鹿市立鈴峰中学校	麻生次郎

---

メモ

## 第 5 分 科 会

テーマ

地域生徒集団の指導とバス学習

助言者	姫路市教育委員会	谷口勉二
司会者	赤穂市立西中学校	富山重信
記録者	〃	岡田純一
提案者	◦地域の啓蒙と家庭学習の習慣化 をねらう町内バスの実践 広島県豊田郡豊浜中学校 武本忠義	
	◦バスを基盤とした地域生徒集団 の指導の在り方 姫路市立高丘中学校 芦田愿賢	

---

メモ

パネルディスカッション

テーマ

自己統合をめざすバズ学習

助言者

名古屋大学教授

塩田芳久先生

司会者

尼崎市立日新中学校

前田義夫

姫路市教育委員会

松岡平八

加古川市立加古川中学校

大玉一実

東京都練馬区立中村中学校

望月和三郎

春日井市立藤山台中学校

荻原克己

姫路市立高丘中学校

石本敬三

メモ

Buzzと小集団学習

集団と教育(小集団)

集団と(個人と)教育(Buzz)

